
∞ 地獄

秋風透

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

∞地獄

【Nコード】

N8047D

【作者名】

秋風透

【あらすじ】

見知らぬ部屋で目が覚める男。短い間での命の取引。立たされた現状把握。あなたは最後には理解出来ますか……？

目が覚めた時にはすでに
「この部屋」にいた。

初めは意味がわからなかった。

確か昨日は市役所の仕事を終えて帰ったら風呂に入って飯くって疲れてたからすぐに寝た……。

はずなのだが訳も分からない部屋にいる。……ここは何処だ？部屋一面が黒い……黒い壁で覆われている。
「何なんだここ？」誘拐された訳では無いらしい。別に何処を拘束されているわけでもないし何より人の気配。生き物気配がない。

この

「部屋」には出口も無ければ窓もなかった。ただ部屋一面が黒くてあるのは目が覚めた時に座っていた椅子だけ……？いや……壁にスイッチがあつた。

2つのスイッチ。

そして下には小瓶があった。近づいて見ると中には液体が入っていた。

男は訳がわからなかった。

「押せて事か？」無意識のうちに男は呟いていた。
しかしボタンは2つある。何故か男には分かった。どちらかは危険なんだ……

何故だろう？先ほどから感じている首筋の辺りが妙にチクチクする違和感の性だろうか……

男はしばらく悩んだ……そして……左を押した……。
ガチャン。

何かが作動した。

同時に何も無いはずの天井から紙が降ってくる。

「残念。君は壁に押しつぶされる……毒を吞んで安楽死するのも君の自由。その毒は楽に死ねる。」

男は額から冷や汗が浮かぶのを感じた。

「死ぬって？……冗談じゃない……」
しかしいつの間にかかべは男の6メートル付近まで近づいてきていた。

ゆっくりと……音を立てながら……。

男は足元の瓶を見た。一瞬嫌な事が脳裏をよぎったが男はもう一つあつたボタンを押した……

ボタンのある壁側から何本かの鉄の棒が突き出てきた。

「これで壁を止められるつてか？……冗談じゃねえ……」確かに無理があつた。鉄の棒は5本ともそんなに太くは無かつたし何より平たかつた。

これでは無理だ。

が、男は気付いた。更に頭上にスイッチが1つある。

「……よし！……」鉄の棒を足枷に男はボタンを押した。

1力所鉄の棒に挟まれるような感じの所に扉が現れた。

男は素早く扉の中に入った。壁が鉄の棒をひしゃげ始めたからだ……。

部屋の中は暗かつた。

闇に少し目が慣れるとそこは通路のようだった。男は走つた。

「ここから逃げられるんだ……！」

なんでそう言つたのかは分からない。

地獄にいる訳じゃないに……

だが男は死んだ……。

通路に穴があつたのだ。下には鋭い剣山。

もう少し慎重に行けば気付いてとべたのに……。

男が目を覚ますと黒塗りの部屋にいた。

「ここは？」

男は全く覚えていなかった。

そう……ここは

「罪人」が死ぬ限り何度でも繰り返される

「無限地獄」

暗闇の中誰かがひそかに呟いた。

「……この男は765回目か……」

（後書き）

初めての小説でした。ってか小説として認めていいものなのか？（汗）間違いだらけで意味分かんなくなりませんでしたか？ホントにありがとうございました！！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8047d/>

∞地獄

2011年2月3日02時07分発行